

冠動脈疾患のステント留置術および不整脈治療のカテーテルアブレーション時の IVR基準点における吸収線量の実態調査

(2007年9月から2009年6月までに九州大学病院ハートセンター心臓カテーテル検査室で施行した方を対象)

【はじめに】

近年、心筋梗塞や狭心症などの虚血性心疾患に対するバルーンやステントでの治療や、不整脈に対する心筋焼灼術などが実施され、これらの疾患に対して効果を上げています。

これらの治療は、カテーテル技術で行われるために治療を受けられる方には比較的 low 侵襲ですが、その反面、X線透視や撮影を使用するために放射線に対する注意が必要です。

現在は、X線装置の進歩により、画像に寄与しない低エネルギーのX線をカットするなどの対策が講じられ、さらに、診療放射線技師による透視条件や撮影条件の適正化が図られ、九州大学病院においては放射線による問題は起こっていませんが、現状を把握しておくことは大切なことであると考え、本テーマについて研究することに致しました。

【研究内容】

2007年9月から2009年6月までに九州大学病院ハートセンター心臓カテーテル検査室で施行した方を対象として、X線装置に内蔵した面積線量計(X線の量を測定する装置)により測定した結果より、各症例ごとのX線量の実態調査を行い、考察します。

【患者さんの個人情報の管理について】

本研究の実施過程およびその公表の際には、患者さんを特定できる情報は一切含まれません。

【医学上の貢献】

この研究により、今後増加するカテーテルテクニックを使用するさまざまな治療時のX線量の最適化が可能となるものと考えます。



虚血性心疾患に対するバルーンやステント治療や
不整脈治療に使用するX線装置

【研究期間】

承認日から2010年4月30日

【研究機関・組織】

医療技術部 部長 大屋信義(責任者)

放射線部門 梅津 芳幸 小川 和久 重谷 昇
木下 絵美 宮崎 仁志

【連絡先】

〒812-8582 福岡市東区馬出3-1-1 Tel 092-642-5791 担当者 梅津芳幸